



川越市立大東西中学校 学校だより

きらめき

令和7年5月12日発行
第2号
川越市立大東西中学校
校長 小川 潤也

学校教育目標 『豊かな心をもち、たくましい生徒 ～ 夢や希望をもつ生徒 ～ 』
○自ら考え、自ら学ぶ生徒 ○豊かな心を育む生徒 ○心身の健康に努める生徒

「とどけ挨拶」の伝統を引き継いで ～挨拶の重要性～

校長 小川 潤也

ゴールデンウィークが終わって学校が始まりました。ゴールデンウィークは、どうでしたか。部活動を頑張った人、勉強を頑張った人、家族と出かけた人、皆さん一人一人が、いろいろな体験、経験、様々な休みを過ごしたことと思います。

私は先日、大変お世話になった知り合いの先生とお話をする機会がありました。話の中で、その先生は、お休みの日に畑で野菜を作っていると話していました。その先生の持っている畑が、これは本当に偶然なのですが、実は、西中学校のすぐ隣にあるんだそうです。長年西中学校を見てきたと言っていました。その先生が、畑で仕事をしていると、部活動の生徒が、挨拶をしてくれるんだよって話してくれました。それは、今年始まったというわけではないみたいでした。どの生徒がとか、どの部活がというのはわかりませんが、「気持ちのよい挨拶をしてくれる、いい印象を西中学校に持っている」って話していました。その話を聞いて、私が学校で会った時も、生徒たち自ら挨拶をしてくれる西中学校の生徒たちですが、学校外で、地域の方々に対して同じように挨拶ができていると聞いて、とっても嬉しかったです。

「おはようございます」「こんにちわ」などの挨拶は、ちょっとした言葉ですが、相手をとっても爽やかな気持ちにしてくれるものです。

「挨拶」は、人と人とがコミュニケーションを始めるときに、とても有効な言葉です。「挨拶」がスタートと言っても言いすぎではないくらいです。挨拶の重要性はそこにあると思っています。それは、漢字を見ればわかります。「挨拶（あいさつ）の"挨"（あい）という字は、『開く』という意味であり、"拶"（さつ）は『迫る』という意味があります。つまり挨拶することは、『自分から心を開いて相手とコミュニケーションをとる』ことです。

挨拶で使う「お」「は」「よ」「う」の4つの字は、単独で「お」や「は」と言っても意味をなしますが、「おはよう」という言葉になったときに、初めて相手にある種の気持ちを届けることができます。「おはよう」という言葉になったときに、その中に魂が宿る、昔の人は「言霊」と言いましたが、私も、言葉には、人の心を動かす力があると思っています。

「ライオンキング」や「アラジン」などのミュージカルで有名な「劇団四季」という劇団がありますが、この劇団は、演目が決まると、その配役になりたい人が、その度毎にオーディションを受け、役を勝ち取るのだそうです。ある役者さんが、オーディションを受け、やっともらった役の台詞が「ありがとう」の一言。その一言を、どんな風に伝えるか、声の大きさ、速さ、顔の表情など、百通り以上の「ありがとう」を練習しているという話を聞いたことがあります。相手の心に響くことを考えて発する言葉。大切な事だと思います。今、世の中は、インターネットなどを活用したネット社会とされています。顔が見えない、デジタルな社会の方向に進めば進むほど、人と人とのコミュニケーションがより大切であると考えます。

西中学校の4つの伝統の中に「とどけ挨拶」があります。これをつくっているのは、皆さん一人一人の取組です。そのよい伝統を引き継いで、これからももっと気持ちのよい挨拶ができる西中学校を皆でつくっていきましょう。（5月7日学校朝会）

【お願い】

5月29日に、体育祭を予定しています。体育祭当日に向け、これから本格的な練習に入っていきます。放送機器を使用する取組も必要となり、近隣の皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解、ご協力をいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。